

事務事業名	理科実験・天体学習指導事業			担当	教育委員会 科学教育センター		
政策名	B	学びと歴史・文化が豊かな心を育むまちづくり			電話番号	0285-83-6611	
施策名	2	小・中学校の教育の充実			<input type="checkbox"/> 実施計画上の主要事業		
基本事業名				事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ		
法令根拠	学習指導要領 真岡市科学教育センターの設置、管理及び使用条例				<input type="checkbox"/> 単年度繰返（開始年度 平成 5 年度～）		
予算科目	1. 一般会計	10. 教育費	4. 社会教育費	4. 社会教育費	<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度（ 年度～ 年度）		
事業概要	<p>・科学教育センターは実験室3室、大型観察実験装置、プラネタリウム、ひとり一組の実験器具を備え、市内の小学3年から中学3年までの児童生徒全員に対し、学校教育の一環として学校では実施困難な理科の観察・実験、天体の学習指導を集中的に実施する施設として平成5年に開設した。・学習は学習指導要領に基づいて、午前中の約3時間、観察実験学習が連続2時間、天体学習が1時間の内容で実施している。1日の利用学級数は3学級で、実験学習が1・2時間目の場合はAコース、2・3時間目の場合はBコースとした時間割とし、A、Bのコース選択は学校の希望としている。・児童生徒に対する学習指導は、各学校の学級担任または理科担当教員が行い、センター指導主事が指導助言している。・小学校（3年以上）・中学校の年間利用回数は年間各学年2回・センター利用学習の際には、各学校からセンターまでバスまたはタクシーで送迎する。・小学校4年生以上の児童生徒に対して、安全面から白衣を着用させている。児童生徒のセンター学習についての感想文やお知らせを掲載した学習広報紙「育てよう科学する心」を定期刊行している。</p>						

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

①手段（主な活動） 22年度実績 ・市内小学校3年生から中学校3年生までの全児童生徒が、1日3時間（観察実験2時間、天体学習1時間）利用した。各学年の入所を年間2回ずつ、午前のみ学習とした。  23年度計画 ・昨年度と同様に実施。	⑤活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移							
	名称	単位	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)	
ア	学習に利用した児童生徒数（延べ）	人	10729	11040	12926	11162	11120	
イ	学習に利用した日数	日	139	143	158	135	135	
ウ	学習に利用した回数	回	139	143	167	175	175	
エ	学習に利用した時間数	時間	417	429	501	465	465	
オ								
②対象（誰、何を対象にしているのか）*人や自然資源等 ・小学校3年生から中学校3年生までの全児童生徒	⑥対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移							
	名称	単位	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)	
ア	市内の小学3年から中学3年までの児童生徒数	人	4581	4626	5621	5581	5560	
イ								
ウ								
エ								
オ								
③意図（この事業によって、対象をどう変えるのか） ・児童生徒に、理科の学習内容を着実に理解させる。	⑦成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移							
	名称	単位	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)	
ア	学習内容を理解した児童・生徒の割合	%	95	96	96	94	95	
イ								
ウ								
エ								
オ								
④結果（どんな結果(上位施策)に結びつけるのか） ・児童生徒の自然科学への興味・関心を高め、確かな学力を身に付けさせる。	⑧上位成果指標（結果の達成度を表す指標）の推移							
	名称	単位	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)	
ア	理科が好きな児童・生徒の割合	%	91	92	92	92	92	
イ								
ウ								
エ								
オ								
(2) 総事業費の推移		単位	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)	
投入量	事業費	財源内訳	千円	0	0	0	0	0
		国庫支出金	千円	0	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0	0
		その他	千円	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	7,422	6,907	10,361	11,541	0	
	事業費計(A)	千円	7,422	6,907	10,361	11,541	0	
	人件費	正規職員従事人数	人	6	6	6	5	0
		延べ業務時間	時間	5,262	5,184	5,904	5,580	0
		人件費計(B)	千円	22,043	21,659	23,947	23,815	0
トータルコスト(A)+(B)		千円	29,465	28,566	34,308	35,356	0	

(3) 事務事業の環境変化・市民意見等

①この事務事業を開始したきっかけは何か？ いつごろどんな経緯で開始されたのか？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学校では実施が困難な実験や体験学習と、効果的な理科の指導のため、大型観察実験装置や一人1組の各種観察実験器具を整備して平成5年にセンターを設立した。学校教育の一環として、児童生徒が集中的に理科学習を進めることができるよう配慮されている。</li> </ul>
②事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少子化が進み、児童生徒数が減少した。（市内全児童生徒数は平成5年が8,287人、平成22年が7,173人）平成21年3月23日に旧二宮町との合併により、小学校が15校から18校に、中学校が6校から9校に増えた。</li> <li>・平成14年から完全週5日制となった。学習指導要領が改定され、「理科」の部分においては、「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」などを柱とした系統的学習とともに観察・実験や自然体験、科学的な体験の充実を図る内容となった。学習内容と学習時間が増加した。</li> <li>・児童生徒送迎バス借上げ料の推移 平成19年度5620千円、平成20年度5346千円、平成21年度5741千円、平成22年度8885千円</li> </ul>
③この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民からは、児童生徒の自然科学への興味・関心が高まると共に学力向上にもつながっていると、大変好評である。</li> <li>・議会からは、全国的にも先進的な施設であり、事業費とのバランスをとりながら効率的に運営するよう求められている。</li> <li>・事業対象者である児童生徒からは、入所回数をもっと増やしてほしいという要望が多数寄せられている。</li> <li>・文教常任委員会において、バス借上げについて市内業者を優先的に選定すべきとの要望があった。</li> </ul>

2. 1次評価の部 \*原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか？ ・意図することが結果(上位施策)に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直し余地がある ・義務教育である小中学校の理科教育の効果を高めるため、学校教育の一環として実施している。
	②公共関与の妥当性 ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか？ ・税金を投入して達成する目的か？	<input type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある ・児童生徒に対して義務教育を充実させることは、市の責務である。
	③対象と意図の妥当性 ・対象を限定・追加すべきか？ ・意図を限定・拡充すべきか？	<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある ・文部科学省学習指導要領に基づき、学校教育の一環として児童生徒への理科教育を実施している。
有効性 評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input type="checkbox"/> 向上余地はない <input type="checkbox"/> 向上余地がある ・観察実験器具を充実したり、児童生徒により分かりやすい指導法の改善を常に図っている。
	⑤廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	<input type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない ・義務教育における指導内容の一部を当センターが担っているため、廃止・休止を行うことによって児童生徒の学習効果が低下する恐れがある。
	⑥類似事業との統合や連携の可能性 ・他に、類似の形態の事務事業はないか？	<input type="checkbox"/> 類似事業がある(類似の事務事業名を記載) <input type="checkbox"/> 類似事業はない
	・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図ることができるか？	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携ができる <input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携できない 類似事業はない。
効率性 評価	⑦事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか？ (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある ・センター利用学習を進める上での最低限の事業費で運営しているため、これ以上削減することは難しい。
	⑧人件費(延べ業務時間)の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？ ・成果を下げずに正社員以外の職員や委託でできないか？ (アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある ・実験室を利用した観察実験学習、プラネタリウムを利用した天体学習を運営する上で最低限の人員配置となっている。
公平性 評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか？ ・受益者負担が公正・公平になっているか？	<input type="checkbox"/> 公正・公平である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある ・義務教育の一環として、小3以上の市内小中学校の全児童生徒が利用している。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性(改革案・実行計画) <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 見直し( <input type="checkbox"/> :目的妥当性 <input type="checkbox"/> :有効性 <input type="checkbox"/> :効率性 <input type="checkbox"/> :公平性) <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 継続	(3) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か？それをどう克服していくか？																								

4. 事務事業の2次評価結果(事業の総括と事業の方向性)

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 <input type="checkbox"/> 記述説明不足(説明責任不充分) <input type="checkbox"/> 評価内容が客観性を欠く <input type="checkbox"/> 評価内容は客観的と言える	(5) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
			削減	維持	増加																			
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 2次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																								
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的絞込み <input type="checkbox"/> 目的拡充 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 予算増大 <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(4) その他2次評価会議で指摘された事項																							